

乳用牛遺伝性疾患専門委員会における検討経過

乳用牛の新たな遺伝性疾患の出現等に対処するため、乳用牛遺伝性疾患専門委員会（以下「専門委員会」）では「乳用牛の遺伝性疾患への対応方針」（以下「対応方針」）に基づき、以下のような検討を行ってきたところ。

平成14年度

- 専門委員会の設置
- 対応方針を決定し、対応方針に基づき、「複合脊椎形成不全症（CVM）」と「白血球粘着性欠如症（BLAD）」を指定遺伝性疾患として指定
- 「CVM」と「BLAD」について乳用めす牛のランダムサンプリングの開始

対応方針のポイント：専門委員会は新たに疾患が発見された時には、これを検証し、必要があれば当該疾患を公表し、さらに重大な経済的損失をもたらすと判断された場合においては、これを指定遺伝性疾患として指定することができる。

平成24年度

- 「短脊椎症（BY）」を、指定遺伝性疾患として指定
- 「BY」について乳用めす牛のランダムサンプリングの開始

平成25年度

- 「単蹄」、「HH1」、「HH3」、「HH4」について乳用めす牛のランダムサンプリングの開始

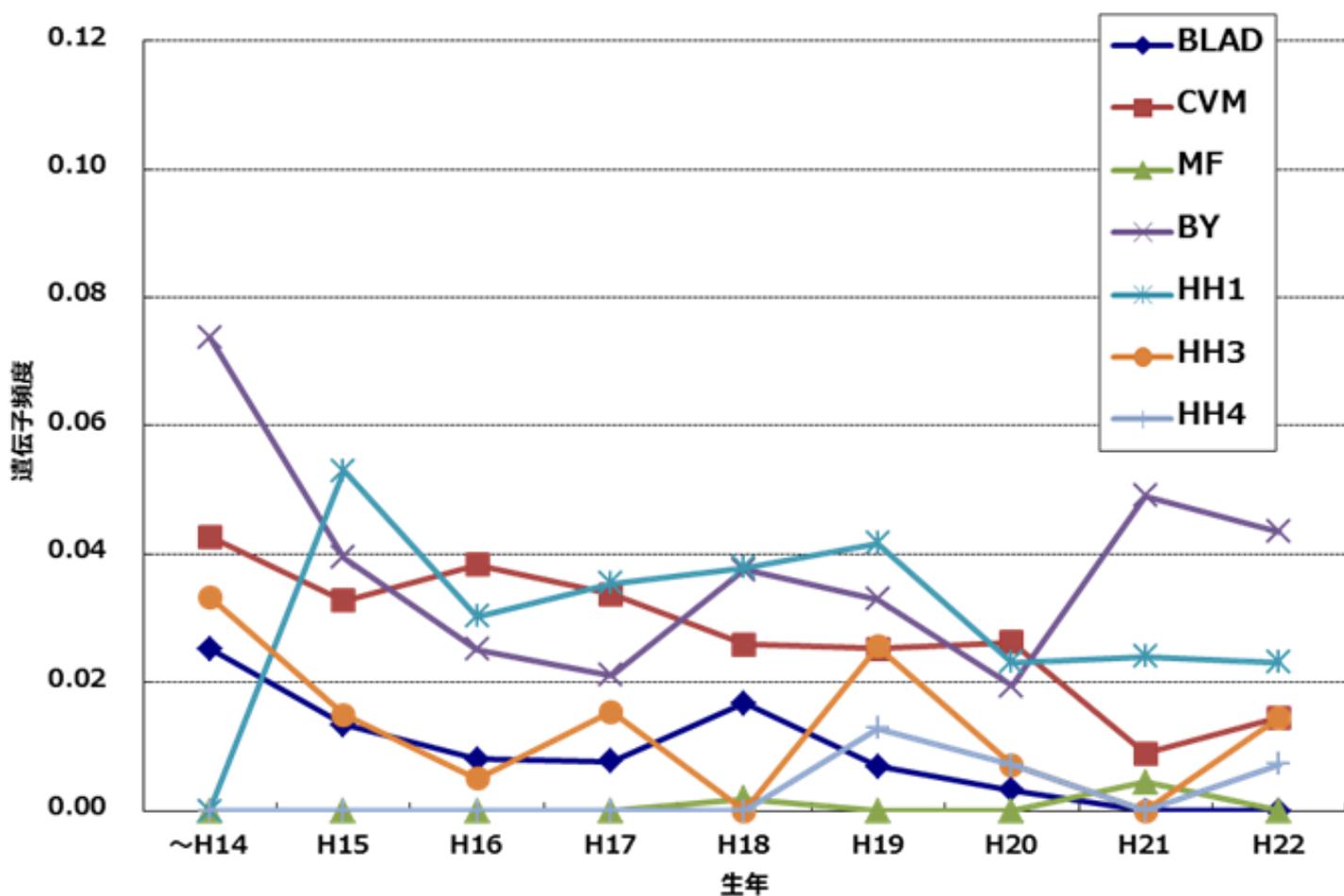
（参考）

専門委員会により、「CVM」と「BLAD」が指定遺伝性疾患として指定されたことを踏まえ、国は、平成15年度に「CVM」と「BLAD」を家畜改良増殖法施行規則に定める遺伝性疾患に追加

モニタリング調査結果概要

平成14年度より、乳用めす牛のランダムサンプリング（食肉処理場における乳用牛及び後代検定娘牛の母牛由来の試料採取）を行い、一般乳用めす牛における遺伝的不良形質の浸潤を調査した。

すべての遺伝的不良形質において、変異型ホモ個体は検出されなかった。



生年	CVM			BLAD			MF			BY		
	正常	保因	遺伝子 頻度	正常	保因	遺伝子 頻度	正常	保因	遺伝子 頻度	正常	保因	遺伝子 頻度
～H14	3,685	344	0.043	3,824	203	0.025	61	0	0.000	52	9	0.074
H15	627	44	0.033	654	18	0.013	114	0	0.000	105	9	0.039
H16	578	48	0.038	617	10	0.008	219	0	0.000	208	11	0.025
H17	483	35	0.034	511	8	0.008	260	0	0.000	249	11	0.021
H18	311	17	0.026	317	11	0.017	264	1	0.002	246	20	0.038
H19	207	11	0.025	215	3	0.007	212	0	0.000	198	14	0.033
H20	144	8	0.026	153	1	0.003	154	0	0.000	148	6	0.019
H21	110	2	0.009	112	0	0.000	111	1	0.004	101	11	0.049
H22	67	2	0.014	69	0	0.000	69	0	0.000	63	6	0.043
H23	19	1	0.025	20	0	0.000	20	0	0.000	20	0	0.000

生年	HH1			HH3			HH4		
	正常	保因	遺伝子 頻度	正常	保因	遺伝子 頻度	正常	保因	遺伝子 頻度
～H14	11	0	0.000	14	1	0.033	15	0	0.000
H15	59	7	0.053	65	2	0.015	67	0	0.000
H16	93	6	0.030	99	1	0.005	100	0	0.000
H17	118	9	0.035	126	4	0.015	130	0	0.000
H18	134	11	0.038	147	0	0.000	147	0	0.000
H19	143	13	0.042	148	8	0.026	152	4	0.013
H20	124	6	0.023	138	2	0.007	139	2	0.007
H21	99	5	0.024	111	0	0.000	111	0	0.000
H22	62	3	0.023	67	2	0.014	68	1	0.007
H23	17	0	0.000	20	0	0.000	20	0	0.000

注：上表は乳用めす牛のランダムサンプリング結果を、各牛の誕生した年（生年）で並べ替えたものである。